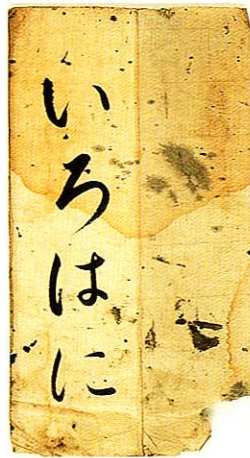


「手習草子」とは、文字を練習するのに用いる帳面のことである。師匠が書いた手習の手本（写真5152）を左に置いて手習草子に練習する。「侠客伝々模略説」（写真53）の挿絵に真つ黒になった手習草子や、男児が習字をするようすが描かれている。練習として不用になった手習草子は、土壁の補習材料として利用された。（写真5455）

〈手習手本〉



52  
「かなつかひ」手習手本



51  
「いろは」手習手本

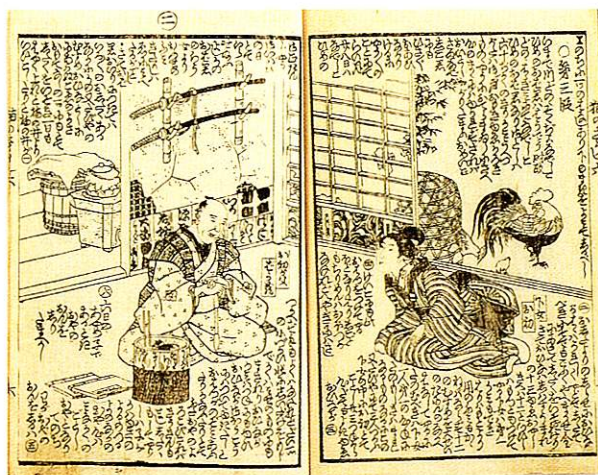
〈草双紙に描かれた  
手習草子と反故〉

手習草子と反故

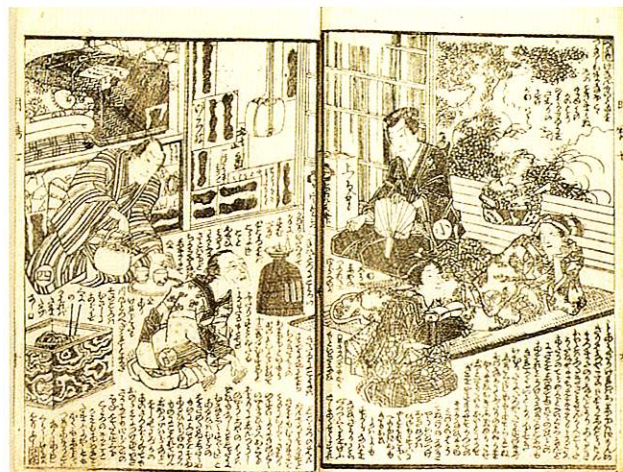


53-2  
初編上十ウ

53-1  
侠客伝々模略説 初編上九ウ・十オ  
きょうかくでんおさなえとき  
楽亭西馬作 歌川国輝・同国綱画  
嘉永3（1850）～安政4（1857）刊



55  
朧月猫の草紙 六編上五ウ・六オ  
おぼろづきねこのそうし  
山東京伝作 歌川国芳画  
天保13（1842）～嘉永2（1849）刊



54  
明鴉墨画廻補襦 七編上九ウ・十オ  
あけがらすすみえのうちかけ  
春亭春馬・二世柳亭種彦作 二世歌川国貞・歌川国政画  
文久元（1861）～慶応3（1867）刊